

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選

その4

文：長谷沼 せいきち 清吉さん

ふじさん たいない 富士山と胎内くぐり

新郷の富士地区に富士山という山があります。三省堂の山名辞典によれば、全国で二番目に高い「ふじさん」で、海拔508.8m、山頂に富士神社の祠ほくらがあります。この祠は胎内くぐりができる造りで、3回くぐると生まれ変わることができるといわれています。

人の一生は、順風満帆とはいきません。山あり谷ありで、不安や悩み事、人には言えない秘密、良心の呵責かしやくなど、悩みは尽きません。

また、近世は現代とは違い、地域の中で自然と共に歩み、神仏に頼り、お参りしたことでしょう。そんなとき、この山に参拝し、自身について心の中で問いながら、祠を3回くぐり、今の自分から解放されることで新しい日々が始まる…。富士山は、そんな庶民の願いを叶えてくれる信仰の山です。

漆窪登山口より登り、長い一ノ坂を登り切って飯豊山に手を合わせ、二ノ坂では御神楽岳に手を合わせ、三ノ坂を登れば頂上です。そこで磐梯山に手を合わせてから胎内くぐりを行います。祖先はなんと素晴らしい祠かんじょうを勧誘してくれたのでしょうか。

明治32年、山三郷に赤痢が流行ると、富士山は疫病除けの信仰を集め、地元はもちろん、町内や旧高郷村、会津坂下町、遠くは会津若松市の門田からも参拝していました。昭和18年には、村長を先頭に鉦かねや太鼓を叩いて雨乞いをしています。

現在では、小清水自治区と漆窪自治区で「西会津富士の郷」を立ち上げ、登山道を整備し、7月に山開き、2月にスノートレッキングを開催しており、参加者や登山客が年々増えています。



▲ 富士山山開きの記念撮影



▼ 胎内くぐりの様子



今月の表紙

今月の表紙は、7月21日から23日の日程で行われた「第55回いいでの集い」から。表紙の人は、参加者のサポートと一緒に登山した西会津消防署の荒井克弥さん。飯豊の難所といわれる「御秘所」で、岩場によじ登りながら最高の笑顔を見せてくれました。
※7ページに関連記事

編集後記

今年も行ってきました「いいでの集い」。山の稜線から眼下に広がる雲海を撮影したいと思い、笑う膝を何とかこらえながら登ったのですが、山の上は濃い霧で真っ白。思うような写真は撮れず、さらに下山の日は大雨。飯豊は本当にさまざまな表情を見せてくれます。ところで、いいでの集いから帰り、「何故減っているかな」とうきうきしながら体重計に乗ってみました。すると、なんと体重が増えていたではありませんか。それも2・5キロも。どうして…。
山での飯はおいしい。長谷川祐一